

確かな学力を身に付ける生活科・総合的な学習の時間の授業づくり  
～探究的・協同的に学び合う活動を通して～

共栄大学教育学部 若手三喜雄

はじめに

- \*今こそ、生活科・総合的な学習の時間のより一層の充実を
  - ・何かを知っている→知識・技能等を活用して何かができるようになる学び
  - ・学習意欲（自分とのかかわり、地域社会とのかかわり、体験を通じた学び）
  - ・自立への基礎（学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立）
  - ・自己の生き方（自分が何をすべきか、学ぶ意味や価値、学んだことの生かし方）

1 これからの社会に求められる学力

- ・30年間（1945～1975頃）：知識・理解・技能面の重視
- ・20年間（1975～1995頃）：関心・意欲・態度面の重視
- ・20年間（1995～現在に至る）：思考力・判断力・表現力などの重視
- ・21世紀型スキル（2010）の提唱
- ・文科省：21世紀型能力（2013）思考力を中核に基礎力と実践力を

2 生活科・総合的な学習の時間新設の趣旨とねらい

- \*なぜ生活科や総合的な学習の時間が必要になってきたのか
  - ・平成元年（1989）生活科の誕生  
「新しい学力観」を具現化する教科として誕生（主体的に学ぶ力の育成）  
体験の重視、個性を生かす教育、学校と家庭・地域とのかかわりの見直しなど  
→授業の変革を！
  - ・平成10年（1998）総合的な学習の時間の誕生  
「生きる力」の具現化を目指す学習活動として誕生  
特色ある教育活動、横断的・総合的な学習、探究的学習、協同的学習など  
→自己の生き方を考える授業！

3 新しい社会の創造を目指す学習活動としての生活・総合

- ・解のない社会の中で、より望ましい方法を選択する力  
→実社会とかわることで、社会の一員としての自覚及び充実感
- ・探究的に学ぶために  
児童の思考の過程の重視、主体的な課題の設定、整理・分析の工夫など
- ・協同的に学ぶために  
思考の可視化、外部人材の活用、地域社会との直接的なかかわりなど

4 授業の変革

- \*授業は協力してよりよいものを追究する場
  - ・自分の考えをもつ→他者に分かりやすく伝える→他者と考え交流しより高める
  - ・展開→まとめ→導入への転換（家庭学習は情報収集の場）
  - ・授業は納得の場（自分自身の成長の自覚）
  - ・自分自身や自分の生活について考える場  
→自立への基礎（学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立）

おわりに

- \*これからの授業で求められる学び
    - ・実感を伴った学び
    - ・自分自身に何ができるかという学び
    - ・自己の向上を目指す学び
    - ・つなぐ・組み合わせる・組み替える学び
    - ・幅と深さ・体験と言葉の学び
    - ・新たな社会を創造する学び など
- 「・・・ただわかったばかりで実地に応用せねば、すべての学問は徒勞なり、  
昼寝をしている方がよし。  
教師は必ず生徒よりもえらき者にあらず。・・・（明治28年4月愛媛県尋常中学校）」